第8回
まとめ

（1）プログラム

日　時｜ 12 月 15 日（日） 13: 30 ~ 16:30

会　場｜ 江東区文化センター5階　第6～8会議室

内　容｜まとめ

・動画構成案について意見交換しよう

13：30（25 分）　本日の進め方 / 前回のまとめ
　　動画案 V コンテの説明
13：55（30 分）　全体で意見交換
　　・構成案について
　　・本日撮影したい場面の確認
14：25（30 分）　グループワーク
　　・自己紹介
　　・撮影場面の検討、練習
　　・構成案について、質問やアイデア
14：55（10 分）　深川高校国際協力ボランティア部の活動紹介
15：05（10 分）　~ 休憩～
15：15（60 分）　全体で再度確認
15：25（60 分）　３グループに分かれて撮影
　　・やり方の違い、寸劇など
16：25（05 分）　事務局からの連絡・アンケート記入
16：30　　終了

（２）UD 動画のテーマや前提条件など

《テーマ》目的は同じ、やり方が違う

～ UD まちづくりを進めるために、その基本となる「障害の社会モデル」と「合理的配慮」の考え方を伝える～

《対　　象》12 才くらいから大人まで

《活用方法》江東区の公式 Youtube で発信する。

◇活用例

・基本は中学や高校の UD や人権などの授業で活用する。

・大人向けの講座やイベントでも活用する。

◇より深く学ぶために

・語彙の説明や関係リンクを示したサブテキストを作成し、動画の理解を深めるために活用する。

・動画にはサブテキストの QR コードを掲載し、リンクできるようにする。

《動画の時間》10 分前後

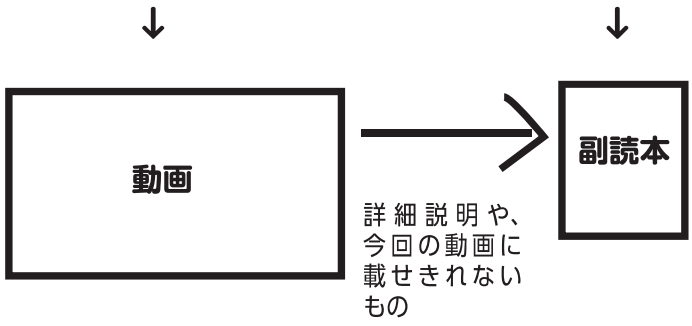
《これまでやってきたことと、動画・副読本への反映の整理》

第１・２回　オリエンテーション／まち歩き

→やり方の違う人と一緒にまち歩きをすることで、やり方の違いを実感

第３・４回、第５回、第６回　UD まちづくり講座の検討と実践

→高校生に“合理的配慮”を伝えるための講座の検討実践を通して、UD まちづくりで大切なポイントを考えた



（３）UD 動画の V コンテ案

以下のような V コンテ案で全体構成を確認し、合意が得られたあと、５つのシーンについてグループに分かれて UD 動画に活用する動画を撮影することを提案し合意が得られた。

1

2

3

4

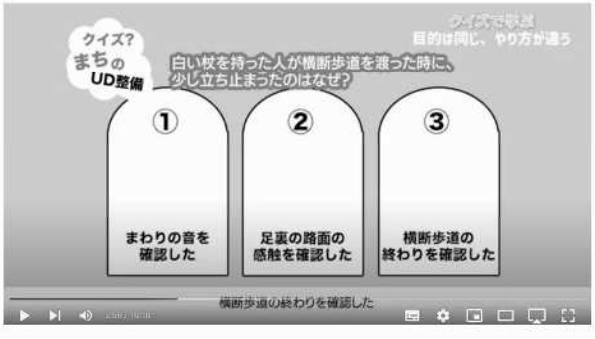
5

6

7

8

9

10


11

12

小さな段差なので、気がつかない人もいるよね。
さっき歩いていた白い杖を持った人に聞いてみよう。

13

こんにちは。さきほど、横断歩道を渡る時、なぜ一旦立ち止まったのか、
kotoくんに説明してもらえませんか。

14

「移動する」という同じ目的でも、白い杖を使って歩く人や、
車いすを使って移動する人がいて、それぞれやり方が違うんだよ。

15

そうだね。まずは、それぞれに違いがあることを認めること、
そして違いを知ることや、お互いの伝え方や手助けが大切なんだ

1シーン｜話をする

16

2シーン｜文字を読む

店員「いらっしゃいませ（あっ白杖を持った人だ）

17

3シーン｜劇1

どうしたらいいかを聞く

18

③どうしたらいいかを聞く

19

店員　いらっしゃいませ(あれ手話みたい)

20

4シーン｜劇2

21

他に方法はないかを考える

22

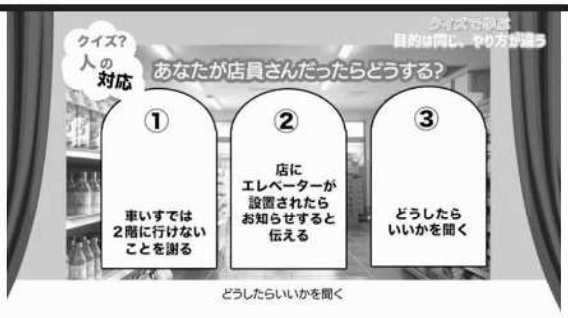
回答③ 他に方法はないかを考える

23

店員｜いらっしゃいませ（車いすを使っている人だ）

5 シーン｜劇３

24



どうしたらいいかを聞く

25

最初はとまどうことがあるかも知れないが、
コミュニケーションを重ねてお互いを知り、理解を深めていけばいいんだ。

（４）グループワーク｜ UD 動画のシーン撮影

５つのグループに分かれて、UD 動画で活用するシーンを撮影した。

編集会議での意見

はじまり

- 黄色い背景に黄色い文字で読みにくい　→デザイン（明度彩度含む）を検討
- 左下に聾者による手話通訳が入ることを伝える
- BGM は今より小さく
- シナリオが完成したら、事前に確認してもらう

まちでの音響信号機

- 青を知らせる音「カッコ、ぴよぴよ」の音は大きく入れる
- 青を知らせる音響と UD 博士のせりふが重ならないように
- 信号の音は全国共通なのか。ぴよぴよとカッコーの違いは？　→副読本に入れるか要検討
- 視覚障害者ヒアリングの後、UD 博士の「ありがとうございました」のせりふは不要か
- 段差があるのは「車道と歩道の間」→「横断歩道と歩道の間」（会議後の確認）

UD の考え方の基本

- 移動 | 歩いている人は「2 本の足で歩く」にしては。「目でまわりを見ながら」は車いすも松葉杖も同じ
- 文字を読む | 点字を読んでいるシーンは長くして欲しい。点字を読むスピードがわかるから

寸劇

- 手話の選択肢、「手話ができる人が現れるまで待つ」は現実的ではない。→「他に方法はないかを考える」を正解にするために考えた。「手話ができる人を探しに行く」だとそれも正解になってしまう。また、現実的でない、奇想天外な選択肢も良いという意見もあった
- 車いすの選択肢、「大型スーパーを案内する」は視聴者がひっかかりそうでいい。選択肢が良くなっている

エンドロール

- 深川高校と連携しながらつくってきたことを伝えられるといい
- エンドロールも読み上げてほしい

副読本について

- 伝えたいポイント、目的は同じやり方は違うから説明して、ユニバーサルデザインまちづくりの解説は最後にして、伝えたいことを最初に持ってきてはどうか
- 目次があるといい
- エスコートゾーン、信号の音響の違いなども入れられるか要検討
- 副読本は印刷はしない。動画内で案内して PDF で見る形式（画面左上に二次元コードで案内することも検討）

通訳者を入れる

- ろう者による手話通訳を入れられないか